

# 書あり 師あり 友ありて



= 直心くんからマスクが届きました =

学校長 平田 高之

本校に入学予定だった、当時中崎小学校6年生小川 直心くんが、この2月13日の新入生説明会にお母様と一緒に参加していたところ、急に体調が悪くなり、救急車・ドクターヘリで病院に搬送されて治療を受けましたが、息を引き取られました。

中崎小学校出身の生徒の皆さんは、一緒に中学校生活を送ることができることを楽しみにしていたと思います。お通夜にお邪魔させて頂きましたが、気丈なお母様と直心くんが本校の制服を着ている姿が今でも脳裏に浮かぶのですが、私たち教職員も入学を待っていましたので本当に残念でなりません。

2月24日のお葬式は「じきしん旅立ちの祭典」とされて、650人以上の方々見送られたと聞きました。「直心 旅立ち」の中で、「人生で一番大切なことはなんだと思う？」これに対する私たちの答えがいつも「make people happy(みんなをハッピーする)」だったから」とお母様は書かれていました。直心くんは、周囲を幸せにし、キラキラ輝いた12年の人生を送られたんだと実感しました。

この5月18日に、お母様から学校に宅急便が送られてきました。中には、お二人からの丁寧で素敵な手紙、直心くんの素敵な似顔絵の入ったシールのついた大蔵中学校の全生徒及び教職員分のマスクが入っていました。お母様は入学前から、「中学校に入学したらPTA活動等、学校教育に是非協力させてもらいたい。」また、お礼の電話をさせて頂いた時も、「中学校の行事等に行かせてもらいます」と仰って頂きました。本当にありがとうございます。

入学式の式辞でも少し触れさせて頂きましたが、大蔵中生の皆さんには、本校への入学を心待ちにしていた直心くんの思いも胸に、一日一日を大切に、そして、充実した中学校生活を歩んでほしいと願っています。

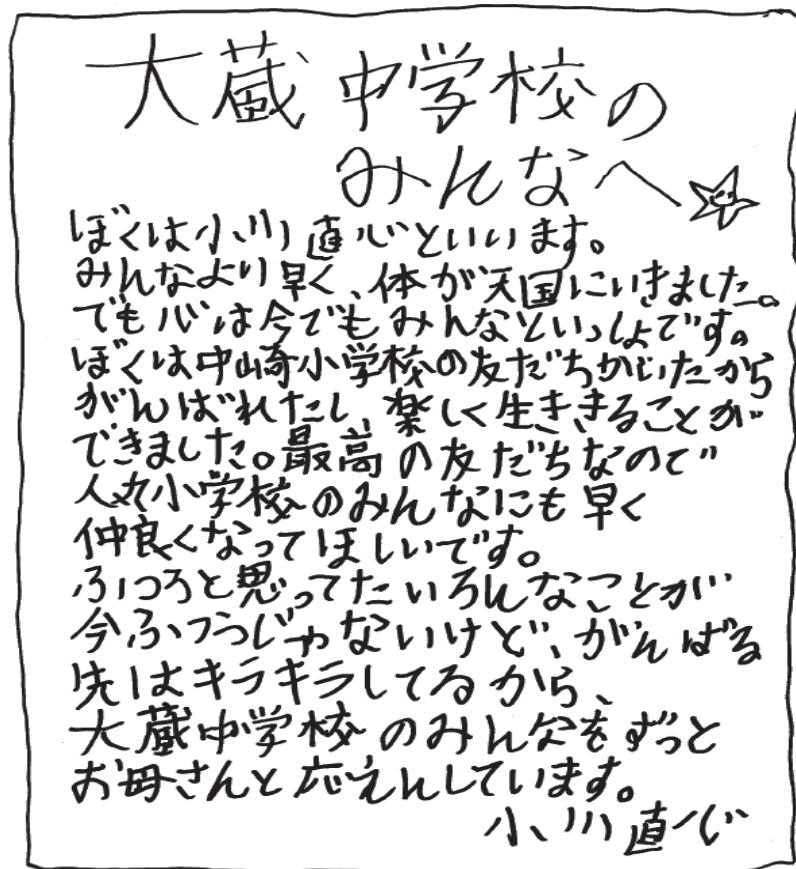
NHK朝の連続ドラマ「花子とアン」でも取り上げられましたが、カナダの作家モンゴメリさんの「赤毛のアン」一部に

「未来はまっすぐな一本道のように、目の前どこまでものびているようだったわ。どんなことが起こるか、さきのほうまで見とおせると思ったくらいだった。

でも、今その道には、まがり角があるの。まがり角のむこうに何かがあるか、今はわからないけど、きっと素晴らしいものが待っていると信じることにしたわ。」

というものがあります。

直心くんの手紙の中にも「今ふつうじゃないけど、がんばる 先はキラキラしてるから」とありますが、新型コロナウイルス感染症でなかなか先が見通せない日々が続きますが、その先にはきっといちばんよいものがあると信じで乗り越えていきたいと改めて思いました。



※直心くんの思いをお母様が代筆されたお手紙です

